

# 令和4年度 学校評価「総括表」

# 猪名川小学校

教育目標	人と心をむすび、志をもって未来を拓く子どもの育成	今年度の総括的自己評価
本年度の重点目標	<p>◎感染症から子どもの健康と安全を守る教育環境づくり</p> <p>①人と心を結ぶコミュニケーション力「書く力」「話す力」を身につけた子どもの育成</p> <p>②子どもがゆとりをもって学べる「学校行事」のスリム化と「教育課程」の見直し</p> <p>③確かな学力を培う「少人数学習」「個別指導」の推進</p> <p>④子どもの未来を拓く「特別支援教育」の充実、ともに学びあう子どもの育成</p> <p>⑤タブレット端末を活用した「わかる楽しい授業」「進んで取り組む家庭学習」の推進</p> <p>⑥PTAと連携した保護者に寄り添う「子育て支援」「家庭教育」の強化</p> <p>⑦子どもと向き合える時間の更なる確保、教職員の心身の健康を守る「業務改善」の推進</p> <p>⑧猪名川小学校コミュニティー・スクール運営協議会の設置及び活動開始</p>	<p>コロナ禍3年目となる今年は、感染防止対策の更なる徹底を行いつつ、命と健康を守るためより一層工夫し、学校行事のスリム化と教育課程の見直しを行い積極的に教育活動を継続してきた。変化の激しいこれからの社会においては、一人一人の子ども達がそれぞれの可能性を伸ばす手段として、ICT機器を上手く活用する必要がある。一斉授業と個別学習、協働学習の場面で効果的活用方法について、研究教科の「国語科」で書く力を中心に研修し、児童の機器活用力、教職員の技能的な指導力も大きく向上した。日常の授業においても、「主体的、対話的で深い学び」を意識した展開に努める。個に応じた指導については、児童生徒支援教員、スクールアシスタント、通級指導教員により多くの児童の学習生活状況が大きく改善された。今後も学級担任等との連携をとっていきたい。猪名川小学校においても、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）がスタートした今年度は、学校と地域住民が知恵を出し合い、学校と協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、学校経営方針の決定にも参画していただいている。地域や保護者の皆様を学校に積極的に招き来校機会を増やすことで、子どもたちとの距離がぐんと縮まった。保幼小交流、小中交流（トライやる・ウィーク、オープンジュニアハイスクール）も3年ぶりに実施できた。来年度はwithコロナの学校教育を更に前向きに推進し、児童が主体的に取り組める行事の在り方を模索し、元気で活力ある学校を目指していきたい。</p>

自己評価 4：できている 3：どちらかといえばできている 2：どちらかといえばできていない 1：できていない

※予定

分野領域	評価項目	自己評価	結果	課題（教員・保護者）	改善の方策	学校関係者の提言				
1 学校運営	・現状をふまえた教育目標の設定と周知	4	<p>・昨年度の児童・保護者アンケート結果、学校関係者助言をもとに、本校のめざす児童像を「自分の言葉でしっかり話し、人とつながれる子ども」と定め、研究教科の国語科で「一人一人が自分の考えをもち、学び合う子どもの育成～書く力を高める学習活動～」と研究主題を設定し学校だより等で周知した。</p> <p>・講師を招へいし6年生を対象とした「命の授業」を実施した。ワークショップを用いながら児童が自他を大切にし、自他の命を大切にする意識を高めた。</p> <p>・今年度新たにPTA援助のもと「たいせつな自分のからだ、友だちのからだ」と題して1年生とその保護者対象に講師を招へいし学習した。</p> <p>・職員が協力し合い、一つの目標のために日々取り組んでいる。</p> <p>・職員室が明るく教職員が勤勉である。</p> <p>・教職員がいつも明るく澆刺とした姿勢で児童に接している。</p>	<p>★「気持ちのよいあいさつのできる子ども」を望む保護者の願いとは裏腹に、22.18%の保護者が児童は家庭や地域であいさつができていないと感じている。（学校評価）</p> <p>★色々な分野で活躍されてる方や立場の違う方を招き、お話を聞く機会を設けて頂きたい。児童数が少ないのを活かして、体験型の授業や校外学習を増やして頂けると嬉しい。（2.4年生保護者）</p>	<p>①毎年あいさつについて話題にあがる。来年一年間かけて、高学年児童や児童会などと一緒に、学校の課題として考えていきたい。</p> <p>②今年度は、3年ぶりに学校に講師を招へいし料理・昔遊び・手話・点字・独楽など様々な体験型学習が実施できた。来年度はさらに豊かな学びにつながるよう計画する。今後も、開かれた学校・保護者の思いに寄り添える学校を目指していく。</p>	<p>・先生方や職員室の雰囲気が明るく、子どもたちが楽しそうに見える。</p> <p>・国語力をはぐくむことを目標にされたこと、「命の授業」の実施、「たいせつな自分のからだ、友だちのからだ」という学習、どれもが今の児童の課題とマッチしていて、良い取り組みだと思う。</p> <p>・あいさつすることの大切さをわかり、全児童が意識していると思うが、実際声にすることが難しい児童もいる。朝の場面や校内の場面など、場面を絞って取り組むのも良いのではないかと。</p> <p>・あいさつに関しては、「知らない人には付いて行かない」等の安全教育と、「地域の人には挨拶をしよう」という部分との兼ね合いが児童には難しく、高学年は発達段階としても他者との距離感というところでは難しいところがある。まずは校内での徹底を目指していくのが良い。</p> <p>・あいさつについて、子どもたちと保護者との温度差がある。「知らない人と話をしない（不審者対応）」指導が影響している。地域の大人が子どもに向けてもっとあいさつをすべき。</p> <p>・学校長のリーダーシップのもと、課題を明確にし、職員が一丸となって活力にあふれた学校運営に期待している。</p> <p>・新型コロナの制約がある中でも、講師を招へいしての体験型学習に前向きに取り組めていることは十分評価できる。自分の言葉で話し人につながることは、今後の人生において重要なスキルと認識し指導されている。</p>				
	・いのちを大切にする教育への取組	4					<p>・全教職員が、学校の現状をふまえた校務分掌の編成</p>	<p>・参観・懇談は、新型コロナウイルスの感染拡大状況に対応して、実施方法をその都度工夫して全て実施できた。</p> <p>・保護者にボランティア参加を願うコミュニティ活動は、感染症対策を講じながら実施した。</p> <p>・職員会議では、担当者は事前に部会で十分検討したものを提案した。終了時刻を明確にして、議題ごとの協議時間を明示した。</p> <p>・定時退勤を意識して業務をこなす教職員が増えた。仕事にメリハリをつけ効率よく仕事をするため、学団で時間設定をして声をかけ合った。</p> <p>・学校評価（保護者）をWebアンケートで実施し、ミマメルメとフォームズを併用することで回答率が約82%になり、その上飛躍的な事務量の削減に成功した。</p> <p>・学校評価（児童・教職員）もWebアンケートで実施した。</p>	<p>★授業参観など学校に行く機会を増やして欲しい。（5年生保護者）</p> <p>★コロナ禍で難しいとは思いますが、もう少し保護者同士の交流があったらいい。（5年生保護者）</p> <p>★児童が主体的に取り組める行事がもっとあれば良いと思う。コロナ禍で難しいかもしれないが、以前までやっていた運動会の応援合戦や、音楽会や卒業式のピアノ伴奏を子どもがしていたのは、とても良かった。（3年生保護者）</p> <p>★運動会を以前のように充実させてほしい。運動会が特に簡素化されて寂しいものになってきた。プログラムを元のようにたくさんしてほしいし、ある程度得点制にして学年を超えて応援したり、保護者や先生も加わった盛り上がった競技を取り入れたり、少人数の学校ならではの楽しい行事になるよう希望する。（6年生保護者）</p> <p>★組織的な教育活動、計画的な職員会議を行うにはどうしたらよいか。</p>	<p>①今年度はコミュニティスクールの実施により、学校運営協議会を通じて、まずは保護者が学校の事を知るためのさまざまな取組が行われた。「積極的に参加したい」「協力する」という声が今回のアンケートも多かったので、来年度は早めに声をかけることができるよう計画を進めていく。</p> <p>②学級懇談会で事前に話題を募ったり保護者交流したり実施方法を工夫する。</p> <p>③運動会期間の練習時間の確保が難しいことや、運動会当日の子どもたちの体力のことを考えると、午前中開催が妥当と判断し、来年度の運動会も午前中開催で行う。ただし、同時刻内で得点競技や応援団の工夫をするために大幅な改革を行っていく。（※）</p> <p>④校務分掌は業務量に応じた適切な人数と人を配置する。均衡が崩れた場合は、年度途中であっても、校務分掌検討委員会にて人員を変更したり増減したりする。続けて教職員の勤務時間の適正化に取り組む。</p> <p>⑤職員朝礼は、現在週2回（月・金）朝8：20～行っているが、来年度は児童下校後の夕刻の会を取り入れる。これまで児童支援のために朝礼に参加できずにいた特別支援学級担任や支援員も参加することができるようにすることで、全教職員でより密な連携、同一歩調での指導を目指す。</p>
	・活力にあふれた学校経営	3								
2 教育計画	・学校の現状をふまえた校務分掌の編成	3	<p>・参観日・懇談会の実施、家庭・地域との連携</p>	<p>・計画的な職員会議</p>	<p>・業務の見直し、勤務時間の適正化</p>					
	・全教職員の学校教育目標への参画	4								
	・教育課程の計画的実施	4								
	・参観日・懇談会の実施、家庭・地域との連携	4								
	・計画的な職員会議	4								

分野領域	評価項目	自己評価	成果	課題（教員・保護者）	改善の方策	学校関係者の提言
3 学級経営	・学習規律の徹底と学習環境づくり	3	<p>○担任の先生の手厚いサポートに本当に感謝している。保護者としては先生方の負担が少しでも緩和出来るように協力する。（2年生保護者）</p> <p>・コーディネーターが中心となって、教職員がSSWやSCと連携して学級経営状態や児童の理解、指導の具体について交流し、助言しあう機会を増やすことができた。</p> <p>・学級担任は、保護者に児童の頑張っているところや良さ、学級経営方針が見えるような学級だよりの作成に取り組んだ。アンケートでも95%の保護者が教職員への教育相談に満足し、95%の保護者が学校は保護者の期待に応えていると感じている。</p> <p>・学力向上委員会では全国学力・学習状況調査の結果に対応した分析をおこなった。「書く」ことに特化し朝学習の内容を充実させた。</p>	<p>★各個の授業によって、学習規律や生活規律の感覚のずれが生じやすい。指導の徹底や学習環境の整え方についてどのような改善方策があるか。</p>	<p>①学習規律や生活規律（猪名川小学校の『みそあじ』）、UDの視点に基づいた学習環境づくりについては、年度初めの共通認識が途中でぶれることのないように、チェックリストの活用や教職員相互の声かけを充実させる。</p> <p>②放課後の学年打合せで、こまめに学習進度や児童の実態について確認し合い、同一歩調の指導ができるよう努める。</p>	<p>・今年度も、いつも先生方が丁寧な言葉遣いをされているのを見て、子どもの良い見本になっていると思う。</p> <p>・多忙な中、しっかり子ども達に寄り添ってもらっていると感じる。</p> <p>・懇談の際に、各担任から、児童の良いところをたくさん話してもらえてよかった。そういう方向性が教員間で共有できているのもとても素晴らしいと思う。</p> <p>・学習規律や生活規律は、児童が主人公を心がけたい。一人一人が「行きたい・学びたい」学校づくりを今後も期待している。</p> <p>・UDを視点にした学習環境のブレがない見直しと、日々の教職員の相互の声掛けが一番重要であり難しさを感じる。</p>
	・児童理解と信頼関係づくり	3				
4 学習指導	・個に応じた学習指導方法の工夫改善	3	<p>○家庭でも自分から読書をする習慣が少しずつついてきた。（1年生保護者）</p> <p>・児童生徒支援教員、スクールアシスタント、通級指導教員による個に応じた指導で、多くの児童の学習生活状況が大きく改善された。</p> <p>・ALTと英語専科教員による楽しくわかる外国語活動により、児童のコミュニケーション力が向上し、外国語活動に対する意欲と積極性が高まった。</p> <p>・今年度から新学社のドリルやテストの購入特典で付与されるタブレットドリル「デジタマ」を全学年実施した。ドリルやテストに準拠した内容で分かりやすいため、予習や復習だけでなく、テスト勉強にも活用することができた。</p> <p>・4年生は県警サイバー課より、5、6年生は株式会社KDDIより講師を招き、情報モラル講習会を実施した。保護者にも案内して、SNSやインターネットの安全の使い方について、身近な事例を用いながら学ぶことができた。</p> <p>・今年度より、週ごとにホームページの更新を学年に分担するようにした。その結果、たくさんの種類の記事が更新することができた。</p> <p>・今年度、児童のタブレットの活用スキルが向上した。校内におけるICT担当のリーダーシップのもと、全教職員の軽いフットワークと日頃の積極的な活用の賜物である。</p>	<p>★これから必ず必要な読解力、表現力を身につける授業や課題に力を入れてほしい。</p> <p>他校に負けない学力をつけて欲しい。（1.6年生保護者）</p> <p>★欠席時の授業フォローが他市に比べ、タブレット活用が足りていないように感じている。（4年生保護者）</p> <p>★オンライン授業の充実。いろいろな授業に参加できるといい。やりとりはなくても授業の風景を映してくるだけでもいい。映しておくだけなら、先生方の負担も少ないと思うが。（4年生保護者）</p> <p>★重たいタブレットを毎日持ち帰るが、使用するのは週に1回から2回と聞く。使用しない時もあるとの事である。毎日持ち帰る必要があるのか？毎日持ち帰るのであればタブレットでの学習を充実させて欲しいと願う。（3年生保護者）</p>	<p>①全学年で「書く」活動に重点を置き、講師の先生もお招きし先進校の研究会に積極的に参加しながら、友だちと関わり合い学び合う機会を多く取り入れた授業づくりの研究を進めている。これからも、ICTの活用も併せて「主体的、対話的で深い学び」を目指した授業づくりに努めていく。</p> <p>②ICTに必要性のある効果的場面の研究を進めていく。</p> <p>③欠席時の授業フォローやオンライン授業については今後の検討課題。使える教室用タブレット端末数が足りない件や教職員の負担少なく実施できる方法を来年一年かけて探っていく。</p> <p>④如何なる不測の事態が起きたとしても「学びを止めない」という国の方針のもと、毎日持ち帰ることを進めていく。もっと充実するために、授業における積極的で効果的なタブレット活用方法を今後も職員に周知していきたい。</p>	<p>・如何なる不測の事態が起きたとしても「学びを止めない」という姿勢が素晴らしい。</p> <p>・児童から「勉強が分からない」「勉強したくないから学校行きたくない」という声が多く出ていないので、素晴らしい。各職員と話をしていても、どの児童も学習面でしんどいとか、付いていけないという声が多く出しておらず、先生方の指導に感謝している。</p> <p>・「書く」活動に力を入れておられるのは、とても素晴らしいと思う。今、「書く」力は児童に育んで欲しい能力の一つだし、多くの子に不足している力だと思う。書くことで自分や周囲を客観的に見ることができたり、衝動性のコントロールにもつながるので、今後もぜひ続けてもらいたい。</p> <p>・人前で話をするのは難しくても、朝の会でのスピーチや読書感想文など、話す前に意見をまとめる学習は個々の書く力につながるのではないかと。</p> <p>・学習規律は、子ども達が集団で学ぶ上で基本となるものと考えられる。楽しさの中にも、規律ある授業が子どもの学習意欲を高め、学習成果にも表れると思う。</p> <p>・学習指導は難しいが、清掃や安全指導でコミュニティ・スクールでも何か参画できないかと思う。</p> <p>・ICTを活用した効果的な場面など、子ども達は視覚支援が多く、使い慣れも早く、意欲的に学んでいけるツールだと感じる。</p> <p>・タブレットの活用は、今後の課題として取り組むべき内容であるが、ネット環境の改善にも、行政は力を入れて欲しい。</p> <p>・タブレットを活用した授業づくりや予測不能な時代を生き抜く児童のために、基礎学力の定着を今後も期待している。</p>
	・きめ細かな指導方法の実施	3				
	・情報、道徳・人権、図書館教育等の適切な指導	4				
	・保健、給食、清掃、安全教育等教科外の適切な指導	3				
5 特別支援教育	・保護者との共通理解のもと行われる個に応じた指導	3	<p>・全職員が特別支援教育の中のUDの視点を授業の中に組み込み、誰もが分かりやすい授業づくりをめざした。</p> <p>・通級指導児童が7人に増えた。特別支援学級・通級指導連絡ノートで教師の思いを伝え保護者の声に耳を傾ける相互交流の場とした。</p> <p>・通級指導担当教諭と学級担任、コーディネーターが同席した保護者との個人懇談会が実施できた。</p> <p>・支援の必要な児童の輝く場面を見つけて交流学級児童に伝えた。</p> <p>・児童の巡回相談については、担任の必要性と保護者のニーズと見極めて細やかな連絡相談のもと行っていくことを部会で再確認できた。</p> <p>・保護者の相談を積極的にSCにつないだ。必要に応じてSC・SSW・教育支援センターなどの関係機関と積極的に連携し丁寧な対応ができた。</p>	<p>★交流学級の児童と支援学級在籍の児童、通常級に在籍をする特別な支援が必要とする児童とどう心をつぶ取組を行っていくか。</p>	<p>①どの児童もいいところを見つけ良さを紹介することは非常に大切。同様に、支援児の困り感を理解し共に成長する学級集団を目指す。</p> <p>②遊びを通して心が通じ合ったり、座席の工夫で児童が落ち着いたりすることもあるので、交流学級担任と支援学級担任とが連携して支援を深める。</p>	<p>・配慮の必要な児童に対し、常に心配りをしながら指導されていた。</p> <p>・一人一人に寄り添う目標のもと学校運営がされているので、子どもは幸せだと思う。個々の強みや弱みを理解して周りにつながっていくことも含めて、一人一人に寄り添っていくことが大切である。</p> <p>・多くの児童がお世話になっているが、みんな楽しんで行っていること、そして、差別的な扱いを受けたという話を全く聞かないことは素晴らしい。</p> <p>・特に今年度は交流学級での活躍の場を与えていただいた。おかげで、交流学級への抵抗がますますなくなり、支援学級と交流学級の垣根が良い意味でなくなってきたと思う。</p> <p>・「特別支援学級」と「交流学級」という区別がなく、どんな児童も普通学級で過ごすことができるようなユニバーサルデザインを進めてもらいたい。全職員が特別支援教育の中のUDの視点を学級経営の中に組み込み、誰もが安心して過ごせる（あるいは、安心して活躍できる）学級づくりをめざして欲しいと思う。</p> <p>・通常学級児童への特別支援教育に力を入れて取り組んでいるのがよくわかる。支援児童の困り感に対する支援の手をどのように差し伸べていくのかという取組をさらに期待する。</p> <p>・子どもの個性に応じて「コレだけは誰にも負けない」というものを家庭や学校で見つけ、褒め、将来の目標に向かって褒めて褒めて伸ばす教育があってもよい。</p> <p>・通級指導教室の良さや意義を教職員が理解し、個に応じた指導を今後も続けて欲しい。</p>
	・交流学級児童とつながる取組	3				
	・児童の教育相談、SCとの連携	4				

分野領域	評価項目	自己評価	成 果	課 題（教員・保護者）	改善の方策	
6 生徒指導	・組織的な生徒指導	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急性のある案件については、養護教諭が児童の変化に素早く察知し、専科の教員など生徒指導担当に限らず全職員で丁寧な対応に心掛けることができた。</li> <li>・いじめ・不登校・問題行動の予防・早期発見に向け、生徒指導委員会で組織的に対応することができた。保護者や児童からの相談は、学年・生徒指導担当に連絡をし、管理職に詳細を報告するなど、「報告→連絡→相談→確認」の一連の動きを組織的に行うことができた。</li> <li>・「いながわ子供の家」児童について、必要な情報交流を双方の職員で丁寧に行った。</li> <li>・必要に応じてSC・SSW・こども課・中学校などの関係機関と積極的に連携し丁寧な対応ができた。</li> </ul>	<p>★組織的な対応を行う必要があるのは事実だが、どう情報を共有し同一歩調で授業時間を削らずに指導できるか。また、一部（生徒指導担当）に係る負担が軽減できるか。</p>	<p>①職員間での意思疎通が大切。「報告→連絡→相談→確認」の一連の動きを同一歩調で組織的に行うためには、聞き取りは複数で行い、聞き取りや指導は授業に長引かないよう速やかに進める。指導は週をまたがない。いじめに関する案件は家庭訪問を行い、児童と共に経過やその後の様子等も話す。保護者との関係を密にしていく。</p> <p>②担任だけでなく、学年、生徒指導(不登校担当)と連携しながら、ケース会議等を随時ひらき、学校と家庭が繋がっていけるように取り組みを進めていく。また、教室に入りにくい保健室登校児童についても、定期的に状況を交流・対応を検討していく。</p> <p>③中学校校則を見て猪名川小学校ルールも検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の先生を中心にいつもお世話になっていて、ありがたい。組織的な生徒指導を今後も心がけて欲しい。</li> <li>・今年度は例年にまして、初期対応がとても迅速で、聞き取り等をすぐに済ませてもらっていたし、ある程度対応の形が統一されてきたように思う（その後の施設での対応もしやすいのでありがたい）。</li> <li>・このラインを超えたら教員間で問題を共有するという、ラインづけがまだ教員間でのバラつきがあるかと思うので、今後さらなる改善をお願いしたい（例えば、暴力的な行為に対して、すぐに報告をして下さる先生もいれば、それぐらいは子どもならあるからという感じで学校で対応して終わっていて、こちらが後から知るといったこともあるので）。</li> <li>・「中学校校則を見て猪名川小学校ルールも検討する」は絶対に必要なことだと思う。中学校は「校則」で学校として統一されているが、まだ小学校は、学級や学年単位で規則的なことにバラつきがあるように感じる。そのあたりのバラつきは児童や保護者の不満に直結すると思うので、統一したルールを作る方向性で考えてもらえたらと思う。</li> <li>・対応時には複数で速やかに行い、保護者との関係を密にしていくという改善方針は大いに評価できる。学校のルールについて、小中連携していくことも大切。</li> <li>・先生方が意思疎通と、報告・連絡・相談・確認を確実にすることが、子ども達を守っていくことにつながると思う。</li> </ul>
	・問題行動の指導	3				
7 研究・研修	研修の計画・実施	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく着任してきた教員を中心に、いながわ子供の家の施設見学及び質疑応答の研修ができた。</li> <li>・毎週火曜日は指導内容を決めて「書くカドリル」に取り組み、家庭での日記・作文学習につなげた。</li> <li>・今年度より全学年でデジタルドリルを購入し授業や家庭でタブレットでも繰り返し実施できるようにした。</li> <li>・夏休みの研修では、幅広く各分野別（国語・特別支援教育・人権・カウンセリングマインド等）行い充実していた。</li> <li>・新しく研究教科を「国語科」に定め、全学年で「書く」活動に重点を置き、講師の先生も招へいし年間2本の校内研究、年間4本の学年研究授業を公開した。</li> <li>・先進校の研究会に積極的に参加し他の教員に研修する機会を持ちながら、友だちと関わり合い学び合う機会を多く取り入れた授業づくりの研究を進めた。</li> </ul>	<p>★教職員のニーズに合った研修を取り上げ、充実するための工夫とは。</p> <p>★研究成果を全職員の学びに広げるためには、どうしたらよいか。</p>	<p>①本校のめざす児童像・学校教育目標に向かって、新たな研究主題を設定共有し、講師の助言を仰ぎながら研究を進める。来年度も、先進校の研究会に積極的に参加しICTの活用も併せて「主体的、対話的で深い学び」を目指した授業づくりに努める。研修時の学び合う手法を試しながら、多くの教職員の意見を引き出していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上のためには、授業研究は欠かせない。児童が主役の授業を今後も続けて欲しい。</li> <li>・研修のお手伝いをしたが、事前に参加者の方から研修に対するニーズや内容に関する疑問などをいただいていたので、非常にやりやすかった。今後も微力ながらお手伝いを行いたい。</li> <li>・校内研究「国語科」では、「書く力」に焦点を当てて取り組んでいるが、書くことが苦手な児童への配慮についても教職員で研修して欲しい。</li> <li>・先生方の勤勉さが伝わってくる。</li> <li>・学校の課題に沿いながら、幅広い分野において熱心に研修されているのがよく分かった。きっと、子ども達の育ちに生かされていくと思う。</li> </ul>
	研修成果の普及	4				
8 コロナ対策	感染拡大状況に合わせた適切な対応	4	<p>○コロナの状況も見ながら学校行事も実施していただいているので、今年は子どもの様子や学校の雰囲気なども確認でき安心している。（2年保護者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートで、「コロナ禍で様々な制限があった中でも保護者の願いに応え工夫しながら行事をおこなっている」「安心して子どもを通わせることができる学校である」と、96%の保護者から肯定的な評価が得られた。</li> <li>・体調不良の児童は部屋を別にし、会議室を第2保健室として感染拡大防止に努めた。</li> <li>・コロナ・インフルエンザでは感染拡大を防止するために換気・手指消毒などの未然防止に努め、感染経路確認及び早めの健康観察を行った。</li> </ul>	<p>★withコロナにおける学校行事の在り方について。</p> <p>★食べることの大切さは伝えたいが、無理強いはいできない中、コロナ禍残食量がとても増えている問題をどのように考えていくべきか。</p>	<p>①数年かけて行事の在り方を模索し、午前中開催の運動会や音楽会を実施してきた経緯がある。どの子にとっても達成感のある行事になるよう検討していく。</p> <p>②黙食などのマナー面は、ガイドラインに沿わせる。標準的な量は食べられるように、目標の共有や、配りきるなど教師側が意識し学級児童の実態に応じて対応していく。残食多学級は、SDGsの学習とつなげて減らすよう取り組むのもあり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な制限の中、保護者の願いに応え工夫しながら行事をしたことが良かった。また、安心して子どもを通わせることができる学校であるという保護者の評価も高く、教職員の取組が素晴らしいと感じた。</li> <li>・最大限の感染対策をとりながらの行事等の実施に感謝している。</li> <li>・来年度からは、新型コロナウイルス感染症が「5類」に引き下げられることで、保護者間の意見の相違はますます大きくなっていくことが予想される。やはり学校は集団生活であり、児童はもちろんですが、先生方にとっても、安全で安心できる環境でなくてはならない。よって、年度当初から「猪名川小学校には、多くの児童と先生がいること」「その中には病気にかかりやすかったり、不安になりやすい人もいるし、それは決して悪いことではないこと」「学校は、みんなが安心できる環境を作る必要があること」「時には一般的なレベルよりも、強い対策を取る必要が出てくること」を児童や保護者はもちろん、関係者にも周知して、納得していただく必要があると思う。</li> <li>・継続していくことと改めていくことが、今後の学校に必要なと感じた。</li> <li>・感染の状況は時期により大きく変動するので、対応に苦慮したことと思う。保護者の安心する形で行事を進められたことは大いに評価できる。</li> </ul>

学校関係者評価の総括
・学校長のリーダーシップのもと、課題を明確にし職員が一丸となって活力あふれる学校運営に期待している。
・「命の授業」の実施等、今の児童の課題とマッチした実践がよい。
・コロナ禍で、児童・保護者の安全安心を第一に考え行事内容が精選されてよかったが、行事の簡素化だけでなく、質を高め、児童も保護者も満足できるよう期待している。
・タブレットを効果的に活用した授業づくりの展開と、基礎学力の定着に期待している。「書く」活動に取り組んでいることは素晴らしい。児童が主役の授業を今後も進めてほしい。
・全職員が特別支援教育の中のUDの視点を学級経営の中に組み込み、だれもが安心して過ごせる学級づくりを目指して欲しいと思う。
・生徒指導については、初期対応が迅速である程度対応が統一されてきたように思うが、まだ教師間でのバラつきも感じるので、改善を願いたい。学校ルールについては小中連携していくことも大切。
・安心して子どもを通わせることができる学校という保護者の評価も高く、教職員の取り組みが素晴らしと感じた。

次年度へ向けた重点的な取組【案】
①人と心をつなぐコミュニケーション力「書く力」「話す力」を身につけた子どもの育成
②子どもがゆとりをもって学べる「学校行事」への移行と「教育課程」の編成
③確かな学力を培う「少人数学習」「個別指導」の推進と基礎学力の定着
④タブレット端末を活用した「わかる楽しい授業」「進んで取り組む家庭学習」の推進
⑤子どもが「主語」になる授業と特別活動の推進
⑥子どもの未来を拓く「特別支援教育」の充実、ともに学びあう子どもの育成
⑦PTAと連携し、保護者に寄り添う「子育て支援」「家庭教育」の強化
⑧子どもと向き合える時間の更なる確保に向けた「業務改善」の継続と、教職員の心身の健康を守る職員室経営の推進。
⑧猪名川小学校運営協議会の活動の更なる充実。